

第 17 回朝活かみいちの報告

2015.07.02 記

題目 : 市姫神社と西中町商店街の歴史
進行役 ; 小森武次さん(呉服・洋装小森、店主)
日時 : 7月2日(木)7時から8時まで
参加者 : 12人 (町内7人)

今回、地元で活性化に頑張っておられる小森さんにお話を頂き、後半は自由に語り合いました。

小森さんは街の中心である西中街で洋品店を営んでおられ、町をもっと元気にしなければと活動されておられます。また、勉強家でもいらっしゃいます。

小森さんは、商いの視点から町の歴史を調べておられ、シルバー向きの学習会や講演会にはたびたび講師としてお話をされておられます。また、これまで十数年、上市町の小学5年生全員が参加するふるさと学習でも、市姫神社の解説をしておられます。本日の朝活参加の皆さんのような若い方々に話すのは珍しく、緊張しているとのことでした。続いて話が面白くなかったら足をならしてくださいとも付け加えられていました。

以下、記録風に報告いたします。見て下さい。

< 1 > 上市の概要

上市川が造った大きな扇状地で上市村が誕生し発展しています。市姫神社はどうも要の位置であったようで、松尾台と言って、神社や常福寺のところが周辺に対して(標高が)一番高くなっています。昔は、街道の真ん中に祠としてご神体が祀られておりました。時代が下ってから、今の場所に移されました。と説明されながら、江戸時代末期(150年ほど前)に作られた上市の古地図を皆さんで見ました。

図によれば、上市は今の熊野町から東町までの領域に430件の商店がびっしりと軒を連ねていたといえます。

< 2 > 市姫神社

市姫神社は、上市だけではなく、町外には五百石(立山町)、上滝、魚津、黒部三日市、氷見市南大町、福井県芦原市、金沢市近江町などにもあります。といわれ、一同、びっくり。

さすが商いの神様なので、各地のお祭りは実は市姫神社のお祭りなのです。上市では、6月8-10日、立山町の祭りは11-13日となっています。市姫神社は、当地がもっと栄えるように、とのことで造営されたものでしょう。市姫神社は商いの神様(女性神、商売は女性が取り仕切る)を祀っています。また伝説もありまして、籠に乗った娘さんが上市に着いたら石になったといえます。この話は小学校5年生も知っていたのでびっくりでした。

ご神体は石であるが、どうも上市川の石ではなく、片貝川の石のようである。上市の神社に黒部の三日市からご神体をおつれたという。

< 3 > 上市の商店

江戸末期(1859年)には綿打屋が77軒、綿屋が24軒あったといえます。その後、いくつもの紡績会社ができ、賑わっていましたが、今は細川機業しかありませんが。

なぜ綿屋がこうも多いのかと申しますと、理由は下新川地域が綿花の産地であったので、綿屋が多かったからといえましょう。

もともとの商いの中心市場は上市街西端にある三日市地区ですよね。ここは、立山参道の主通りですよね。とお思いでしょうが、ここから少し東にいったところに新川木綿の綿屋が密集する場所が市姫付近であり、賑わっていたとみるべきなのかもしれません。

< 4 > 街道について

上市には比較的まっすぐな道が多いです。上市魚津街道や上市滑川街道もそうです。これは町が栄えだしてからアクセスをよくするためにまっすぐに造ったものと考えられます。これに

よって、市姫がさらに栄えたといえます。

そして、この時期に祠から今の場所に移転したのでしょう。

ちなみに、街道について補足しますと、上市水橋街道は自然ままの通りです。本道は町で一番古い寺である常福寺の前の道であり、市姫神社前の通りはバイパスだったのではないのでしょうか。なお、道の幅は、荷車が二台交差できる広さです。

< 5 > 上市は東の商いの拠点

明治期の新聞には、「花火大会 東と西で同時開催。北信八州煙火大会、上市と伏木で」という記事がありました。これは、東の商いの拠点が上市であることを物語っていると捉えることができます。

< 6 > 西中町商店街

綿屋の時代以降、街はどんどん発展して西中町商店街が形成され活気をおびていきました。平成元年には 1.5 億円をかけてアーケードをつくりました。

しかしながら、これもすんなりとできたわけではありません。反対の方々もおられました。また迷っているの方々もおられましたが、この方々は反対者の声に惑わされることが多ございました。

そこで、私は事実をしっかりと伝えることが大事と考えて、会で決定したこと、予定、声などを掲載した会報「西中町ニュース」を作り配布いたしました。これによって、陰口はぴたっとなくなり、街の皆さんに納得いただくことができました。アーケード建設にはそんなことがありました。

バブル期に多額の借入金で行った事業は、その後、景気の減速で困難な時代を迎え、返済に苦労しました。昨年やっと完済しました。

< 7 > 今取り組んでいること

私たちは、街に若い方に来ていただくこと、

今住んでいる人が住み続けるようにすることに努力しています。

また、介護問題については、健康を持続する視点が抜けていることを主張したいです。健康を持続することにより、介護を受ける年齢を遅らせれば、それだけで介護費用が不要となります。例を挙げます。H25 年度、上市(旧町)では 75 歳以上の方が 808 人おられます。中新川郡の統計によれば 1 人 200 万円、介護費用がかかります。ここで、上市町で 1% (8 人) でも介護年齢を遅らせれば 1600 万円浮くこととなります。これは立派な社会貢献です。

< 8 > 市姫さんどの企画を実施

(6 月から 11 月まで)月一回、西中町で「市姫さんど」なる企画を実施して、街の方々に喜んでもらっています。“さんど”とは、サンドイッチのことではありません。造語ですが、今でいう流通業者のような(生産者と小売業者の)仲介をする人のことをいいます。

< 9 > そのほか

- ・市姫神社は京都河原町に本家本元です。
- ・市姫サミットを企画しようとしたがダメでした。せめて呉東だけでも。
- ・周辺市町村との連携がないのが残念。立山町の情報はまだ入るが、滑川市とはほとんどなし。もっと県全体で盛り上げていくには、行政のバックアップ等連携のための仕組みが必要。
- ・新幹線効果も連携して増すはず。
- ・東京では神社が多数あり、人が集まる。そういう神社は地域の皆さんによって守られています。信仰心が自負。

街を活性化するには、市姫を大事にすべきで、祭りがもっと賑やかになればと思います。

■小森さんは、文献や自作のもの等たくさん資料を用意され、紙芝居風にしてわかりやすく話してくださいました。終了後、資料をじっくり見せていただき、さらに話が盛り上がりまし

た。

小森さん、参加の皆さん、ありがとうございました。

togashi 編、yamaguchi 修正

■おまけ1：市姫神社の祖、次郎衛門と小森家とは繋がりがああるらしい。眼目山立山寺が火災で過去帳等喪失したため、検証は困難だが、裏の墓地を見て歩くと、想像できるとのこと。でした。by yamaguchi

■おまけ2：ふるさと学習について。

私が現役のとき既に、子どもたちに話して下さっていました。また、3年の社会科学習でも上市町のことを学びます。

ふるさと学習は、澤柿教育長の2000年少し前から始まったもので、もう17~18年になると思います。

町中の小学生が、学年ごとに決まったコースを体験学習するのです。因みに2年生では大岩日石寺に行きます。by yamaguchi

